

# 平成30年度スポーツ振興事業等に係る重点事業等について

## スポーツ振興課 施策体系

### 生涯スポーツの振興

県民一人ひとりが、体力・年齢・技術・目的に応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会の実現」を目指す。

施 策	主な取組
文化とスポーツを核とした地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ファジアーノ岡山、岡山シーガルズ、岡山湯郷ベル、吉備国際大学シャルム岡山高梁の支援</li> <li>○トップクラブチームサポーター拡大事業</li> <li>○地域資源を生かした環境スポーツ支援事業 ・SEA TO SUMMIT開催支援事業</li> </ul>
生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援</li> <li>○スポーツ活動参加への環境整備 ・ライフステージに応じたスポーツ活動促進事業</li> <li>○スポーツ施設等の活用と充実 [岡山武道館、津山総合体育館、津山東体育馆、津山陸上競技場、備前テニスセンター] [美作ラグビー・サッカー場、笠岡陸上競技場、クレー射撃場、百間川ポートコース]</li> </ul>
東京オリンピック・パラリンピック等を通じた地域活力の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリンピック等キャンプ誘致推進事業【再掲】 ・ナショナルチームキャンプ支援事業 ・Touch the DREAM事業</li> <li>○聖火リレー開催等気運醸成・レガシー創出事業</li> </ul>
スポーツを通じた岡山の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おかやまマラソン開催事業</li> <li>○トップクラブチームサポーター拡大事業【再掲】</li> <li>○オリンピック等キャンプ誘致推進事業【再掲】</li> <li>○ライフステージ応じたスポーツ活動促進事業【再掲】</li> <li>○地域資源を生かした環境スポーツ支援事業【再掲】</li> </ul>

### 競技スポーツの振興

「心・技・体+知」を備えたアスリートの育成や指導者の養成、環境の整備による競技力の強化、優れた能力や経験を広く社会へ還元する仕組みの構築など、競技力の維持・向上を目指す。

施 策	主な取組
トップアスリートの育成・強化等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導者の養成・活用 アスリートUターン促進事業 指導者サポート事業</li> <li>○優秀選手の育成・強化 ・ジュニア選手、国体成年選手の育成・強化 ・つくろう・のばそう・育てよう！スポーツプロジェクト ・プレオリンピアンレベルアップ事業</li> <li>○Road to TOKYO 2020プロジェクト オリンピアン・パラリンピアン育成事業</li> <li>○晴れの国トップアスリート派遣事業の実施</li> <li>○国民体育大会への選手派遣</li> <li>○顕彰制度 [岡山県スポーツ特別顕彰、岡山県トップアスリート賞] [岡山県生涯スポーツ功労者表彰、岡山県スポーツマスターズ賞]</li> </ul>

## 重 点 事 業 調 書

担当部局・課名		環境文化部スポーツ振興課、保健福祉部障害福祉課						
新生活き プラン	重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造						
	戦略プログラム	8 生きがい・元気づくり支援プログラム						
	施 策	2 重点生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進	3 重点東京オリンピック・パラリンピック等を通じた地域活力の醸成					
総合 戦略	基本目標	4 地域の活力を維持する						
	対 策	4 地域の持続的発展のための活力の維持						
	政策パッケージ	4-① 地域社会の活性化						
重点事業の名称		東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ生き活きプロジェクト						
終期設定(年度)	32	予算区分	一般	事項名	県民スポーツ振興費、競技スポーツ振興費			
現状 課題 根拠	<p>岡山国体以降の本県選手の活躍や県内トップクラブチームの年間観戦者数24万3千人、おかげマラソンの参加ランナー1.6万人・ボランティア5千人など県民のスポーツへの関心が高まっている。こうした中、東京オリンピック・パラリンピックの開催はスポーツを通じた地域の活性化やトップアスリート育成など、スポーツ振興の絶好の機会であり、この契機を活かし県民がよりスポーツを身近で楽しめる地域を目指す必要がある。</p>							
事業 内容	<p><b>1 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ生き活きプロジェクト</b>《32,415千円》</p> <p>(1) オリンピック等キャンプ誘致推進事業 《11,552千円》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ナショナルチームキャンプ支援事業 《8,202千円》 東京オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプに向けて、市町村や県内競技団体等と連携を図りながら、駐日大使館や競技団体等に働きかけ、ナショナルチームのキャンプ誘致を行う。</li> <li>○Touch the DREAM事業 《2,350千円》 世界又は国内トップレベルの大会を本県に誘致することで、トップ選手と触れ合い、東京オリンピック世代の子ども達に夢や感動を与えるとともに、東京オリンピック等のキャンプ誘致に結びつける。</li> <li>○地域スポーツコミッション支援事業 《1,000千円》 県と連携した、スポーツ大会やキャンプ誘致を行うスポーツコミッションの取組を支援する。</li> </ul> <p>(2) 新規オリンピアン・パラリンピアン育成事業 《11,501千円》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○トップアスリートサポート 《7,209千円》 オリンピック・パラリンピックを目指す選手を対象とし、海外遠征費や器具用具の購入等、必要不可欠な様々な支援を行う。</li> <li>○指導者サポート 《3,971千円》 県内トップ指導者の能力向上を図ることで、トップ選手育成の環境を整備する。</li> <li>○パラリンピアンの講習会等への派遣 《321千円》 スポーツに参加する障害者の裾野を拡大するため、パラリンピアンなどを講師とした障害者スポーツの講習会や体験会を開催し、スポーツへの参加やアスリートを目指すきっかけをつくる。</li> </ul> <p>(3) 新規聖火リレー開催等気運醸成・レガシー創出事業 《1,948千円》</p> <p>東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるイベントとして、多くの県民が参加でき岡山の魅力が発信できる聖火リレーの実施に向けて、県・市町村・警察・関係団体で実行委員会を組織し、準備を進める。</p> <p>また、東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、その効果を地域に波及させ、レガシーを次世代に引き継いでいくよう、フラッグの巡回展示、オリンピアン等による学校訪問などを実施する。</p>							

事業の内容	<p>(4) 新規ライフステージに応じたスポーツ活動促進事業 《7,414千円》</p> <p>おかげやまマラソンの感動や東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う県民のスポーツに対する気運の高まりを生かし、県民のライフステージに応じ、さまざまなスポーツに触れる機会を提供するため、幼児期や高齢期の運動促進モデル事業等を実施し、市町村等において独自に事業を継続できるよう促す。</p> <p><b>ア 幼児期のスポーツ指導者の資質向上</b></p> <p>幼児期における運動体験の充実のため、幼児の指導にあたる保育士やスポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者等を対象に、国が策定した「アクティブ・チャイルド・プログラム」（以下「ACP」）研修会を先導的に実施することとし、専門的指導者を派遣することで、各地域において同プログラムを活用した取組の普及を図る。また、併せて保護者等への啓発活動を促進する。</p> <p>※アクティブ・チャイルド・プログラム</p> <p>子どもが発達段階に応じて、身に付けておくことが望ましい動きを習得する運動プログラム</p> <p><b>イ 高齢期スポーツ+α支援</b></p> <p>地域の公民館や体育館に専門的指導者を派遣し、主体的なスポーツ活動につながるスポ・レク活動を実施することに加え、健康相談や栄養指導等を併せて実施することで、相乗効果を図り、生きがいを持てるモデル事業の普及を図る。</p> <p><b>ウ スポーツ情報充実事業</b></p> <p>県内での「する・みる・ささえる」スポーツ活動の充実を目的とした県内のスポーツ情報を一括提供できる唯一のポータルサイトである「おかげやまスポーツナビ」を、上記事業の情報提供ツールとしてより魅力あるものに充実させるため、県内各地で行われているライフステージに応じたスポーツ活動事例や、ACPやスポ・レク活動等の情報を利用者のニーズに合わせて提供できるよう改修（検索機能の充実、コンテンツ・情報量の増加）する。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた県内のスポーツへの関心・気運の盛り上がりをさらに高めるとともに、それらを県民のスポーツへの参加・実践に結びつけ、スポーツによる生きがい・健康を実現する。</li> </ul>					
事業の意図・効果等						
事業の目標設定	事業	生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等	現状値	目標値		
	1(1)	■■■ナショナルチームキャンプ等誘致件数	11件(H29)	20件(H29～H32累計)		
	1(1)～(4)	■■■「普段の生活の中で芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.6%(H29)	38.0%(H32)		
	1(4)	■■■成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合	49.1%(H28)	52.0%(H32)		
事業費の見積もり	区分	H29予算額	H30予算要求額	H31見込額	H32見込額	H33以降見込額
	事業費(単位：千円)	34,088	32,415	32,415	32,415	
	財源内訳	国庫				
		起債				
		その他特定財源				
	一般財源	34,088	32,415	32,415	32,415	

東京オリンピック・  
パラリンピックの開催

岡山国体以降の  
本県選手の活躍  
10位台を維持

トップクラブチーム  
の活躍  
年間観戦者数  
24万3千人

おかやまマラソン  
の開催  
参加者1.6万人  
ボランティア5千人

スポーツ振興の  
絶好の機会!!

スポーツへの関心の高まり



## 「する」「みる」「ささえる」 スポーツへの参加を一層加速させる!!

### 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ生き活きプロジェクト

(1) オリンピック等キャンプ誘致推進事業  
○オリンピック・パラリンピック等キャンプ誘致

(2) オリンピアン・パラリンピアン育成事業  
○トップアスリートサポート  
○指導者サポート  
○パラリンピアンの講習会等への派遣

(3) 聖火リレー開催等気運醸成・レガシー創出事業  
○聖火リレー実施に係る準備  
実行委員会の設立  
ルート・ランナーの選定・募集  
○気運醸成関連イベントの実施

(4) ライフステージに応じたスポーツ活動促進事業  
オリンピック・パラリンピックを契機にすべての世代で  
スポーツに親しむ気運を醸成する

(ア) 幼児期のスポーツ指導者の資質向上  
(イ) 高齢期スポーツ+α支援

(ウ) スポーツ情報充実事業

相乗効果



すべての県民がスポーツによる  
★生きがいづくり★  
★健康づくり★

OKAYAMA  
SPORTS  
おかやまスポーツナビ  
ホームページなど、岡山県スポーツ情報サイト

【参考】  
第2期スポーツ基本計画の策定  
～すべての世代がスポーツにより強い絆で  
結ばれる元気な地域の創造～

#### 【目指す方向】

★興味・関心・能力に応じてスポーツを身近で楽しめる地域を目指す

気運の高まりを…

参加・実践へ！！

# 指導者サポート事業【新規】

## 1 趣 旨

国はスポーツ指導現場における暴力問題やハラスメント問題等スポーツを取り巻く環境の変化を背景に平成27年度にモデル・コア・カリキュラムを作成し、平成30年度から指導者養成カリキュラムに導入しようとしている。

県としても岡山国体後12年が経過し、指導者の世代交代期を迎えていたり競技団体も多いため、各競技団体の新たな核となる指導者を対象に、国のモデル・コア・カリキュラムを参考に、これまでのカリキュラムでは取り扱われていなかった、哲学や倫理、内発的動機付け、言語・非言語コミュニケーション能力、リスクマネジメント、競技者の長期的なスポーツキャリアを視野に入れたコーチングの在り方等に重点を置いた研修を県独自で実施し、指導体制を再構築することで、今後の本県の競技力向上の礎とする。

## 2 内 容

### (1) 対象

国体正式競技41競技団体の新たな核となる指導者(41名)

### (2) カリキュラム

国のモデル・コア・カリキュラムに基づく

コーチングの理念・哲学、キャリアデザイン、

セルフコントロール、コミュニケーション 等

### (3) 時 間

年間24時間(4時間／1回×6回=24時間)

## 3 事 業 終 期

平成32年度終了予定

## 4 予 算 額

1,377千円(財源:一般財源)

## 平成30年度障害者スポーツの推進について

### 1 第18回岡山県障害者スポーツ大会「輝いてキラリンピック」の開催

障害のある人が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、県民の障害に対する正しい理解と認識を深め、障害のある人の社会参加を促進することを目的として開催する。

- ・開催期間 平成30年4月28日（土）～7月9日（月）、12月15日（土）
- ・参加人員 16競技で約2,500人の選手が参加予定
- ・予算額 12,820千円

### 2 第18回全国障害者スポーツ大会への派遣

- ・大会名称 第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」
- ・会期 平成30年10月13日（土）～15日（月）
- ・派遣 県大会の成績を参考として、個人競技25人（予定）を派遣する。  
団体競技は中四国地区予選会で優勝したチームを派遣する。
- ・予算額 22,277千円

### 3 吉備高原車いすふれあいロードレース

- ・期日 開会式 平成30年10月6日（土）  
大会 平成30年10月7日（日）
- ・参加選手 車いす使用選手と一般選手合わせて約1,500人が参加予定
- ・予算額 2,700千円（負担金）

### 4 障害者スポーツ体験教室

障害者スポーツ体験教室を開催し、障害のある人一人ひとりがそれぞれの障害や体力、興味、目的などに応じて、スポーツに親しみ、楽しめる場の提供を通じて競技者の拡大を図る。

- ・期間 平成30年4月～平成31年2月
- ・開催競技数 19競技
- ・開催回数 1競技 1～4回程度
- ・予算額 1,349千円

### 5 指導者の技術講習会等

#### (1) 指導者養成講習会の開催（県内）

- 岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会の開催
- ・期日 平成30年10月～12月（4日間）
- ・募集人数 40名程度
- ・予算額 453千円

#### (2) 指導者養成講習会等への派遣（県外）

- ①障害者スポーツ指導員（中級）養成講習会への派遣（1名程度）
- ②全国障害者スポーツ大会障害区分研修会への派遣（1名程度）
- ③その他のスポーツ指導員養成講習会への派遣（4名程度）  
(公財)日本障がい者スポーツ協会等の実施する指導者養成講習会に派遣し、指導者の資質向上を図る。
- ・予算額：263千円

### 6 パラリンピックへの対応

東京パラリンピックの開催を契機に、障害のある人がスポーツに参加する気運を醸成するとともに、障害者アスリートの競技力の向上を図る。

また、東京パラリンピックに向けて、選手の育成・強化を図るために、競技団体の強化指定者又は国際大会で上位入賞実績がある者等を対象に、練習拠点への移動経費や施設使用料など、トレーニングに関する経費を助成する制度を新設する。

29年度に新設した東京パラリンピックに係るナショナルチーム等のキャンプ誘致については、引き続き市町村等の取組を支援する。

# 教育庁保健体育課の主な事業

学校での体育の充実を図るとともに、健康教育や食育の推進を通して子どもたちが望ましい基本的な生活習慣を身に付けることにより、生涯にわたりたくましく生きるための健康・体力づくりを推進します。また、子どもの体力向上への意欲を高めるとともに、スポーツを通じて、規範意識や豊かなコミュニケーション能力、人間関係を築く力を醸成します。

## 学校体育の充実

(予算額の単位：千円)

事業名	校種等	内容	予算額
子どもの運動の習慣化事業（チャレンジランキング）	保、幼小、中等高、特	園児・児童生徒の運動の習慣化を図ることを目的として、クラス等のグループ単位で様々な運動に楽しみながら挑戦し、記録をホームページ上で競う。	267

## スポーツを通じた規範意識の向上等

(予算額の単位：千円)

事業名	校種等	内容	予算額
中学校運動部活動支援	中等	選手強化や全国中学校体育大会等派遣費補助など、中学校の運動部活動の支援を行う。特に、平成30年度に中国ブロックで開催予定の全国中学校体育大会に向け、競技力強化についての取組を一層推し進める。	11,649
高等学校運動部活動支援	中等高	選手強化や全国高等学校総合体育大会等派遣費補助など、高等学校の運動部活動の支援を行う。	12,906
部活動指導員配置事業	中	適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進めている市町村を対象に、部活動指導員の配置に係る経費を補助することで、教員の負担軽減と部活動の活性化を図る。	12,029
地域スポーツ指導者派遣事業	中等高 特支	スポーツ団体の指導者資格又はそれと同等の能力を有する地域のスポーツ指導者を県立学校に派遣し、運動部活動の活性化を図る。また、有識者や民間企業で構成する推進委員会を組織し、これから運動部活動を取り巻く課題について協議する。	2,897
平成30年度全国中学校体育大会開催準備事業	中等	平成30年度に中国ブロックで開催される全国中学校体育大会について、実行委員会を設立し、審判員の養成等、大会の開催に向けた諸準備を行う。	32,306
拡充 開催準備経費			

終了・廃止した事業

- 子どもの体力向上支援事業
- 武道等指導充実・資質向上支援事業
- 民間活力による運動部活動支援体制の構築のための実践研究事業

# 重 点 事 業 調 書

担当部局・課名		教育庁教職員課、義務教育課、保健体育課			
新生活活性 プラン	重点戦略	I 教育県岡山の復活			
	戦略アーカイブ	1 学力向上プログラム			
	施 策	3 重点教師の教える技術の向上 4 重点子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり			
総合 戦 略	基本目標	2 人を呼び込む魅力ある郷土岡山をつくる			
	対 策	2 人を呼び込む魅力ある郷土岡山づくりの推進(社会減対策)			
	政策パッケージ	2-④ 魅力ある教育環境の整備			
重 点 事 業 の 名 称		確かな学力の向上			
終期設定(年度)	32	予算区分	一般	事項名	学力向上総合推進事業費 等
現状 課題 根拠	<p>○平成29年度全国学力・学習状況調査では、平均正答率が小学校は全ての科目で全国平均と同等以上になるなど一定の成果が見られた。中学校も全国平均との差は縮小したが、依然として下回っており、また、授業以外での学習時間は全国平均を大きく下回るなど課題があり、更なる重点的な取組が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の結果（括弧内は平均正答率の全国平均との差）           <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校 H28:25位(▲0.9Pt) ⇒ H29:19位(1.3Pt)、中学校 H28:41位(▲8.2Pt) ⇒ H29:34位(▲3.4Pt)</li> </ul> </li> <li>・授業以外で平日1時間以上学習する中学生の割合（公立中学校3年生） H28: 57.2% (全国67.9%) ⇒ H29: 59.2% (全国69.6%)</li> </ul> <p>○平成29年度県学力・学習状況調査における、学習状況調査で学力に影響が大きい主な項目が中1から中2にかけて悪化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか 中1: 72.3% ⇒ 中2: 60.5% (▲11.8Pt)</li> <li>・国語・数学の授業はよく分かる 中1: 86.7% ⇒ 中2: 78.9% (▲7.8Pt)</li> <li>・授業以外で平日1時間以上学習する割合 中1: 75.0% ⇒ 中2: 64.7% (▲10.3Pt)</li> </ul> <p>○教師業務アシスタントや運動部活動支援員を配置することで、教員の学習指導に関する業務時間が増加するなどの成果が見られており、更に取組を広げる必要がある。</p>				
	<p>■授業改善及び教員の意識改革・指導力の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新規外部機関と連携した指導力向上事業《1,750千円》           <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習塾の講師から生徒の興味を惹きつける指導法などを学び、教員の意識改革・指導力向上に資するため、学習塾への教員の研修派遣や、eラーニングの活用を行う。</li> </ul> </li> <li>2 授業改革推進チームの再編           <ul style="list-style-type: none"> <li>・県下の授業改善の一層の推進を行う授業改革推進チームを課題の大きい地域の中学校へ新たに配置する。</li> </ul> </li> <li>3 新規協同的探究学習モデル事業《1,588千円》           <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、解法が一つとは限らない課題に対して、個別及び協同で探究する学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高めるとともに学習意欲の向上を図る。</li> <li>・研究校2校を指定し、大学研究者と連携した授業実践を行うとともに、成果の県内への普及を行う。</li> </ul> </li> <li>4 拡充教師業務アシスタント配置事業《123,762千円》           <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般事務作業等の補助を行う支援員配置による教員の負担軽減(121校115人→162校141人)</li> </ul> </li> <li>5 部活動指導員配置事業《12,029千円》           <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の指導を行う指導員配置による部活動担当教員の負担軽減(50人)</li> </ul> </li> </ol>				
事業の内容					

	<p>■中学生の授業時間以外の学習時間の増加</p> <p>6 新規学習習慣形成事業《1,000千円》 —PTAとの連携強化—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発キャンペーン           <ul style="list-style-type: none"> <li>○県教委からPTA組織や市町村教委等に働きかけ、学校と連携した取組を推進する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ スローガン：中学校家庭学習習慣改革宣言！「Stop!スマホ Start!スタディ！」</li> <li>➢ 実践ルール：「家庭学習1・2・3」</li> </ul> </li> <li>の下、中学生の望ましい生活習慣・学習習慣の確立に向けて、生徒・教職員・保護者に働きかける。</li> </ul> </li> <li>・モデル事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中学校区又は中学校の計8箇所をモデル校に指定する。</li> <li>➢ PTAとの連携の下に、指定校では、実践ルールの徹底に向けて、宿題の出し方、部活動と学習時間との関係などの視点から学習習慣定着の取組を行う。</li> <li>➢ 実践成果を教師力アップセミナーやPTA研修会などで周知し、県下へ普及する。</li> </ul> </li> </ul>				
事業効率の意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力向上による授業改善の一層の促進と児童生徒の学力の伸長</li> </ul>				
事業の目標設定	事業	生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等			現状値
	1~5	「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合			小6:81.1% 中3:69.8% (H29)
	6	授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合			小6:71.0% 中3:59.2% (H29)
事業費の見積もり	区分	H29 予算額	H30 予算要求額	H31 見込額	H32 見込額
	事業費(単位:千円)	159,377	140,129	140,129	140,129
	国庫	52,435	46,438	46,438	46,438
	起債				
	その他特定財源				
	一般財源	106,942	93,691	93,691	93,691

# 確かな学力の向上

## 特に中学校で大きな課題

- 平均正答率について、中学校は全国平均との差が縮小したものの、依然として下回る。
- 県学習状況調査の生徒質問紙において、学力に影響が大きい授業に関する主な項目が中1→中2で悪化している。
- 中学生の家庭学習時間が、学年が上がるにつれて減少している。



## 授業改善及び教員の意識改革・指導力の向上

### 新規 ○外部機関と連携した指導力向上事業(学習塾等民間の力の活用)

- ・民間学習塾等から生徒を惹きつける指導方法などを学ぶ
- ・教員の研修派遣及び派遣者による報告・普及
- ・eラーニングを活用した研修を実施

### ○授業改革推進チームの再編

- ・課題の大きい地域の中学校への新たなチームの配置

### 新規 ○協同的探究学習モデル事業

- ・基礎学習+協同的探究学習 → 知識を活用する力の育成、学習意欲の向上
- ・研究校2校を指定
- ・大学研究者と連携した授業実践

### 【教員が指導に専念できる時間の創出】

### 拡充 ○教師業務アシスタント配置事業

- ・教員の事務作業を軽減するためのアシスタントを配置、121校115人 ⇒ 162校141人に拡充
- ・教員数20人以上の学校には単独配置、15~19人の学校は兼務配置

### ○部活動指導員配置事業

- ・学校の中心的な役割を担う教員(教務主任、生徒指導主事等)の負担を軽減する指導員50人を配置

## 中学生の授業時間以外の学習時間の増加

### 新規 ○学習習慣形成事業

#### —PTAとの連携強化—

#### 《啓発キャンペーン》

☆県教委からPTA組織や市町村教委等に働きかけ、学校と連携した取組を推進する

- ①スローガン: 中学校家庭学習習慣改革宣言! 「Stop! スマホ Start! スタディ!」
- ②実践ルール: 「家庭学習1・2・3」(※)の提案

#### 《モデル事業》

- ・中学校区及び中学校計8箇所をモデル校に指定
- ・PTAとの連携の下に指定校では、実践ルールの徹底に向けて、「宿題の出し方」、「部活動と学習時間の関係」などの視点から学習習慣定着の取組を行う
- ・実践成果を教師力アップセミナーやPTA研修会などで県下へ普及

#### ※「家庭学習1・2・3」

1自分で決めた時刻には勉強を始めます。

2目標の学習時間を守ります。(中1:80分以上 中2:100分以上 中3:120分以上)

3学習中は、スマホには触りません!

# 重 点 事 業 調 書

担当部局・課名		教育庁保健体育課			
新生き活き プラン	重点戦略	I 教育県岡山の復活			
	競技力強化	2 徳育推進プログラム			
	施 策	6 重点健やかな体の育成			
総合 戦略	基本目標				
	対 策				
	政策パッケージ				
重 点 事 業 の 名 称		平成30年度全国中学校体育大会の開催			
終期設定(年度)	30	予算区分	一般	事項名	学校スポーツ活動推進費
現状 課題 根拠	<p>○平成30年度全国中学校体育大会が中国ブロックで開催され、同大会で活躍する選手を育成するため、平成28年度から計画的に選手強化に取り組んでいる。</p> <p>○本県では、陸上競技・水泳競技・剣道の3競技種目が開催される。</p>				
事業 の内 容	<p>1 平成30年度全国中学校体育大会選手強化事業費《5,100千円》            ・岡山県中学校体育連盟に強化遠征、トップコーチ招聘、外部指導者派遣等の費用について補助を行い、開催競技の選手強化を図る（1競技300千円 × 17競技）</p> <p>2 扩充平成30年度全国中学校体育大会開催準備事業《32,306千円》            ・県実行委員会事務局運営費            ・審判員・競技役員等の養成            ・競技運営費補助（岡山市：陸上競技・剣道、倉敷市：水泳競技）</p>				
事業 効果 等の意 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会において、地元選手が活躍することで、大会が盛り上がり、学校体育・スポーツの活性化につながるとともに、県民に活力を与える。</li> <li>県外から多くの選手や観客が来県するため、岡山をPRする絶好の機会となる。</li> </ul>				
事業 の目標 設定	事業	生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等			現状値
	1, 2	1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合			小学校男子 5.7% 小学校女子 10.5% 中学校男子 7.1% 中学校女子 20.7%
	1, 2	全国中学校体育大会出場者数			約300人 (H23～H28 平均出場者数) 340人
事業 費の見 積もり 財源内訳	区 分	H29 予算額	H30 予算要求額	H31 見込額	H32 見込額
	事業費(単位:千円)	11,581	37,406		
	国 庫		3,000		
	起 債				
	その他の特定財源				
	一 般 財 源	11,581	34,406		

# 全国中学校体育大会に向けた 運動部活動支援と開催準備

■開催期日 平成30年8月17日～25日

■目 標 出場選手数340人

(←H23～28の平均:約300人)

## 全運動部活動支援を通した競技力向上

### ◎中学校運動部活動支援事業

全国大会派遣費補助、全種目の強化

## 大会に向けた選手強化

### ◎全国中学校体育大会開催 17種目強化

同校種合同練習、中・高合同練習

強化遠征、医科学サポート

トップコーチ招聘、外部指導者派遣

## 拡充 平成30年度全国中学校体育大会開催準備事業

### ◎県実行委員会事務局運営経費

### ◎審判員・競技役員等の養成

◎競技運営費補助（岡山市：陸上競技・剣道、  
倉敷市：水泳競技）

## 岡山県の学校体育・スポーツの活性化 出場選手や生徒の活躍の場の創出